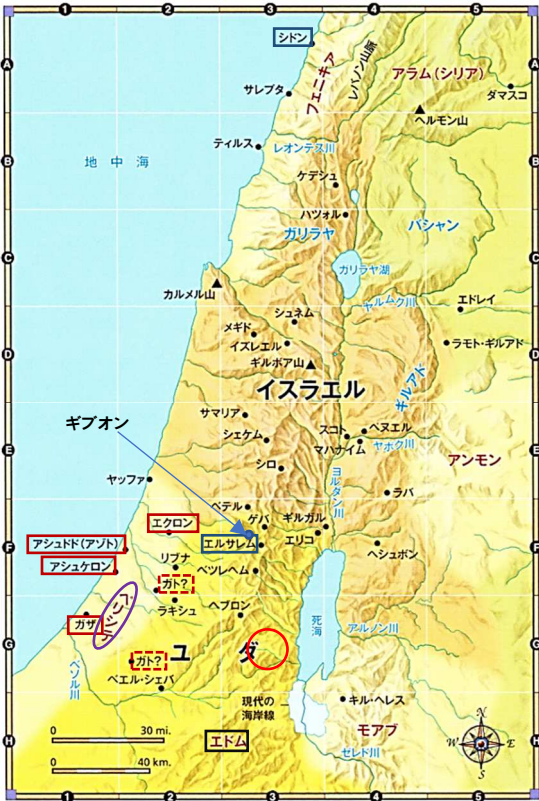


聖書にある「ガザ」 Ghazzah (Gaza)



聖書には、「イスラエル」が 2341 回登場し、「ガザ」が 25 回登場します。聖書にある「ガザ」(パレスチナ最大の貿易拠点)が含まれる聖句を取り上げました(一部)。

現在のガザ地区は、パレスチナ国(=パレスチナ自治政府、ヨルダン川西岸地区およびガザ地区から成り、東エルサレムを首都として定めている)の行政区画です。

▶創世記 10 : 19

カナン人の領土は、シドンから南下してゲラルを経てガザまでを含み、更に、ソドム、ゴモラ、アドマ、ツェボイムを経てラシャまでを含んだ。

→カナンは、地中海とヨルダン川・死海に挟まれた地域一帯を言い、神がアブラハムの子孫に与えると約束した土地であることから、約束の地とも呼ばれる。

カナン人は、地中海沿岸付近に居住し(民数記 13 : 29)、イスラエル人に追い払われる 7 つの民の 1 つであると記されている(申命記 7 : 1~5)。また、長男シドンとヘト、エブス人、アモリ人、ギルガシ人、ヒビ人、アキル人、シニ人、アルワド人、ツェマリ人、ハマト人の 11 の氏族を総称して「カナン人の諸氏族」と呼んでいる(創世記 10 : 15~18)。

▶申命記 2 : 23

また、カフトル島(→クレタ島)から来たカフトル人はガザとその近くの村落に住んでいたアビム人を滅ぼし、代わってそこに住んだ。

→カフトル人: クレタ島から移住し、ガザに拠点を築いたペリシテ人で、ここからこのガザ周辺を「ペリシテ」と呼んだ。パレスチナ(Palestina)は「ペリシテ人の土地」という意味である。

→アビム人は、この聖句以外、ヨシュア記 13 : 3(下記)に登場するのみで、ほとんど知られていない。

▶ヨシュア記 10 : 41

ヨシュアは、(パランの荒野の北部、ツィンの荒野にあるオアシス)カデシュ・バルネアからガザまで、ゴシェン地方一帯を経て、ギブオン(上図参照)までを征服したのである。

→ゴシェンは、イスラエルの民が住んでいたエジプトのゴシェン(創世記 47 : 4~6)ではなく、ユダ山地と南の砂漠地帯の間にある地域(上図○付近?)である。

▶ヨシュア記 13 : 3

エジプトの東境のシホルから、北はカナン人のものと見なされているエクロンの境まで。ここには五人のペリシテ人の領主の治める①ガザ、②アシュド、③アシュケロン、④ガト、⑤エクロンの人々があり、アビム人の領土が

→ペリシテ 5 都市連合: ①~⑤。なお、①ガザと②アシュドには、肥沃と豊饒の神ダゴンを祭る神殿があった。

→ペリシテ人は度々イスラエルと戦った(サム上 14 : 52、17 : 1~54、イザ 14 : 28~31、エレ 47 章、エゼ 25 : 15~17、ヨエル 4 : 4~8、アモス 1 : 6~8、ゼファ 2 : 4~7、ゼカ 9 : 5~7)。

▶士師記 1 : 18

ユダはガザとその領土、アシュケロンとその領土、エクロンとその領土をも占領した。



▶士師記 6 : 3~4

イスラエルが種を蒔くと、(食糧や水を奪い取るため) 決まって(天幕で暮らす遊牧民である) ミディアン人は、(同じ遊牧民である) アマレク人や東方の諸民族と共に上って来て攻めた。彼らはイスラエルの人々に対して陣を敷き、この地の産物をガザに至るまで荒らし、命の糧となるものは羊も牛もろばも何も残さなかった。

▶列王記上 5 : 4

ソロモンはティフサからガザに至るユーフラテス西方の全域とユーフラテス西方の王侯をすべて支配下に置き、国境はどこを見回しても平和であった。
→ティフサはシリア(シリア・アラブ共和国) 北部にある最大都市アレッポの東南東約 90 km のディブセ(右図○付近?) とされる。



▶列王記下 18 : 8

彼(→ユダの王ヒゼキヤ、在位 : BC715/716~687) はペリシテ人を、ガザとその領域まで、見張りの塔から砦の町まで攻撃した。

▶アモス書 1 : 6~7

主はこう言われる。ガザの三つの罪、四つの罪のゆえに / わたしは決して赦さない。彼らがとりこにした者をすべて / エドムに引き渡したからだ (→ユダの町から人々を拉致し、エドム人に人身売買をしていた)。わたしはガザの城壁に火を放つ。火はその城郭をなめ尽くす (→舐め/嘗め尽くす: 全てを焼き払う)。→ダマスコの三つの罪、四つの罪(アモス 1 : 3)、ティルス(同 1 : 9)、エドム(同 1 : 11)、アンモンの人々の(同 1 : 13)、モアブ(同 2 : 1)、ユダ(同 2 : 4)、イスラエルの(同 2 : 6)

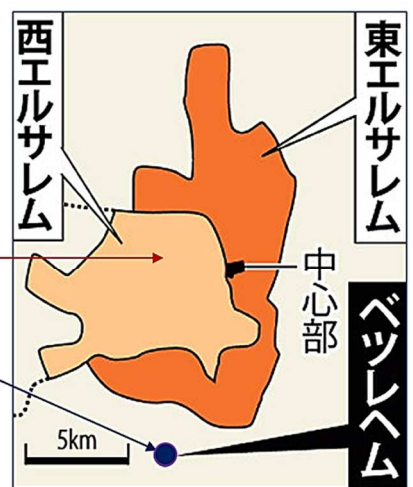
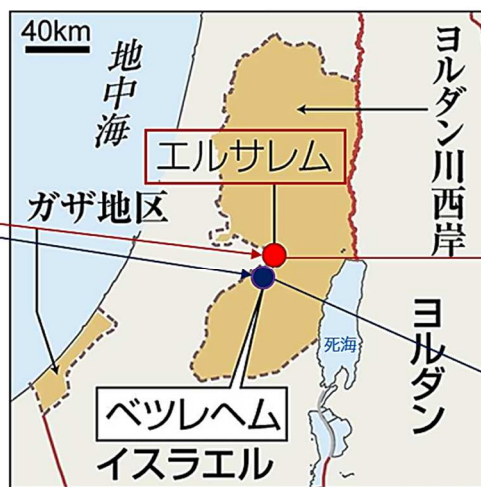
▶ゼファニヤ書 2 : 4

まことに、ガザは捨てられ / アシュケロンは荒れ果てる。アシュドドは真昼にその住民を追われ / エクロンは根こそぎにされる。
→ガトは既に滅ぼされているため、名がない。

▶ゼカリヤ書 9 : 5~6

アシュケロンはそれを見て恐れ、ガザは大いにもだえ、エクロンも期待を裏切られてうろたえる。ガザの王は滅び、アシュケロンには人が住まなくなり、混血の民がアシュドドに住み着く。わたしはペリシテ人の高ぶりを絶つ。

【参考】ガザ、エルサレム 他



※ナザレ / エルサレム (イスラエル) / ベツレヘム (パレスチナ自治区)

出典(図のみ) : 産経ニュース / (図A) 毎日新聞 (図B) →上記図は一部加工しています。